

<総括研究報告>

## 効果的な親子のメンタルケアに関する研究

主任研究者 松井 一郎<sup>1)</sup>

**要約：**親子関係の障害などが関与する小児疾病（状態）の4課題につき医学・家庭社会病理の視点から分担研究した。1)被虐待児の地域システムに関する研究（松井一郎）、2)小児心身症に関する研究（星加明德）、3)病気をもつ子どもの健全育成に関する研究（山本桂子）、4)乳幼児期からの情緒の形成に関する研究（清水凡生）で、いずれもの課題について医学の問題点解明に加えて、家庭や社会背景の問題点や対応策を考察した。生活環境の変化で家庭・社会病理が不可避免的に進行する中で、メンタルケアと対応策の提言が望まれている。

**見出し語：**児童虐待、被虐待児症候群、小児心身症、心身症の背景因子、病児の健全育成、家族への支援、病弱教育、親子関係、情緒形成、体験学習

### 【研究の背景】

地域社会と小児の生活環境の近年の変化、特に家庭や育児或いは親子関係などは、母子保健の目的である健全育成を円滑に達成し難い方向に進んでいると思われる。子どもや親がこれらの変化に適応できない時には軋轢を生じ、心身の障害を生じ、発達に歪みが生じる。近年とくに問題とされる児童虐待や心身症、登校拒否や引きこもりが目につくのは、親子関係、家庭や生活環境の病理の進行を意味するのであろう。

### 【研究目的】

本研究は、親子関係がつよく関連する小児の疾患（状態）を指定し、実態把握、医学的要因、家庭環境要因、社会的要因、発生機序を明らかにし、効果的な予防対策、治療方法、対応策を検討する事を目的とする。

#### 1. 被虐待児の地域システムに関する研究

（松井一郎）

なぜ虐待親が生じるかの要因解析を中心に治療と再発防止に有効な地域システムを構築する。

---

1)横浜市・保土ヶ谷保健所（Hodogaya Health Center, Yokohama City Government）

## 2. 小児心身症に関する研究 (星加明徳)

小児心身症の背景因子と発症プロセスを解析し、易罹病性のある子どもの親や教師の対応法を検討する。

## 3. 病気をもつ子どもの健全育成に関する研究 (山本圭子)

慢性疾患をもつ子どもの発育面での問題点、発達や性格形成に重要な指導法、親や教師の対応法を検討する。

## 4. 乳幼児期からの情緒の形成に関する研究 (清水凡生)

思いやりや優しさを育むために必要な条件を研究し、いのちとの触れ合いや日常的体験の影響を研究する。

### 【研究経過】

研究実施計画(案)提出後、分担研究者会議(平成8.6.25)で研究実施の意見交換を行い、各分担研究課題に設定されたリサーチクエッションに沿って調査研究を開始、4分担班合同の会議(平成9.2.20)で結果のまとめと各分担班に共通の問題を討議した。

### 【研究結果】

#### 1. 虐待・地域システム班

和歌山県、栃木県で虐待防止の全県システム構築後3年で顕著な成果をあげ、2病院の病院内虐待対応システムも虐待の早期発見と対応に有効であった。虐待親の成育歴で幼児期からの虐待が多かった。

#### 2. 小児心身症班

小児心身症の親の困ること聞きたい事を調査し対応法を整理した。心身症の80%が2年後に軽快し背景因子が消失した場合は早期に改善

する傾向があった。

#### 3. 病児の健全育成班

成人した慢性疾患児の調査から健全育成には教育が重要で、罹病中の問題点は学業の遅れ、体育・学校行事への参加が出来ないこと、いじめ、教師の無理解などであった。

#### 4. 情緒形成班

母親の養育ストラテジーの検討から、豊かな情緒形成のためには母親の「愛他心」「向社会性」「道徳観」が重要であった。思春期保健福祉体験学習で父性母性の涵養に効果的であった。

### 【考察】

阪神淡路大震災を契機に「メンタルケア」ところの問題が大きく取り上げられる様になった。しかし、この領域ではこころや行動の物質的基礎の研究が緒についたばかりで方法論の制約が大きい。

本研究班の諸課題は個人(宿主)の生物学的問題と家庭や社会の環境が複雑に絡み合って発症することが多い。両者の関連を解析し発症機構が解明できれば、科学的な予防と対応策に繋がるが容易ではない。

各分担班で実践的な研究を意図して、診断・定義の統一、実態把握、指導と対応法の開発が進められ、各分担報告にみる成果へと進んでいる。今後の課題や提言がなされており、そのひとつずつを検討、研究する必要がある。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



平成 8 年度厚生省心身障害研究

効果的な親子のメンタルケアに関する研究

<総括研究報告>

効果的な親子のメンタルケアに関する研究

主任研究者 松井 一郎

要約:親子関係の障害などが関与する小児疾病(状態)の 4 課題につき医学・家庭社会病理の視点から分担研究した。1)被虐待児の地域システムに関する研究(松井一郎)、2)小児心身症に関する研究(星加明德)、3)病気をもつ子どもの健全育成に関する研究(山本圭子)、4)乳幼児期からの情緒の形成に関する研究(清水凡生)で、いずれもの課題について医学の問題点解明に加えて、家庭や社会背景の問題点や対応策を考察した。生活環境の変化で家庭・社会病理が不可避免的に進行する中で、メンタルケアと対応策の提言が望まれている。見出し語:児童虐待、被虐待児症候群、小児心身症、心身症の背景因子、病児の健全育成、家族への支援、病弱教育、親子関係、情緒形成、体験学習

### 【研究の背景】

地域社会と小児の生活環境の近年の変化、特に家庭や育児或いは親子関係などは、母子保健の目的である健全育成を円滑に達成し難い方向に進んでいると思われる。子どもや親がこれらの変化に適応できない時には軋轢を生じ、心身の障害を生じ、発達に歪みが生じる。近年とくに問題とされる児童虐待や心身症、登校拒否や引きこもりが目につくのは、親子関係、家庭や生活環境の病理の進行を意味するのであろう。

### 【研究目的】

本研究は、親子関係がつよく関連する小児の疾患(状態)を指定し、実態把握、医学的要因、家庭環境要因、社会的要因、発生機序を明らかにし、効果的な予防対策、治療方法、対応策を検討する事を目的とする。

#### 1. 被虐待児の地域システムに関する研究

(松井一郎)

なぜ虐待親が生じるかの要因解析を中心に治療と再発防止に有効な地域システムを構築する。

#### 2. 小児心身症に関する研究 (星加明德)

小児心身症の背景因子と発症プロセスを解析し、易罹病性のある子どもの親や教師の対応法を検討する。

#### 3. 病気をもつ子どもの健全育成に関する研究

(山本圭子)

慢性疾患をもつ子どもの発育面での問題点、発達や性格形成に重要な指導法、親や教師

の対応法を検討する。

#### 4. 乳幼児期からの情緒の形成に関する研究

(清水凡生)

思いやりや優しさを育むために必要な条件を研究し、いのちとの触れ合いや日常的体験の影響を研究する。

##### 【研究経過】

研究実施計画(案)提出後、分担研究者会議(平成 8.6.25)で研究実施の意見交換を行い、各分担研究課題に設定されたリサーチクエッションに沿って調査研究を開始、4 分担班合同の会議(平成 9.2.20)で結果のまとめと各分担班に共通の問題を討議した。

##### 【研究結果】

##### 1. 虐待・地域システム班

和歌山県、栃木県で虐待防止の全県システム構築後 3 年で顕著な成果をあげ、2 病院の病院内虐待対応システムも虐待の早期発見と対応に有効であった。虐待親の成育歴で幼児期からの虐待が多かった。

##### 2. 小児心身症班

小児心身症の親の困ること聞きたい事を調査し対応法を整理した。心身症の 80%が 2 年後に軽快し背景因子が消失した場合は早期に改善する傾向があった。

##### 3. 病児の健全育成班

成人した慢性疾患児の調査から健全育成には教育が重要で、罹病中の問題点は学業の遅れ、体育・学校行事への参加が出来ないこと、いじめ、教師の無理解などであった。

##### 4. 情緒形成班

母親の養育ストラテジーの検討から、豊かな情緒形成のためには母親の「愛他心」「向社会的」「道徳観」が重要であった。思春期保健福祉体験学習で父性母性の涵養に効果的であった。

##### 【考察】

阪神淡路大震災を契機に「メンタルケア」ところの問題が大きく取り上げられるようになった。しかし、この領域ではこころや行動の物質的基礎の研究が緒についたばかりで方法論の制約が大きい。

本研究班の諸課題は個人(宿主)の生物学的問題と家庭や社会の環境が複雑に絡み合って発症することが多い。両者の関連を解析し発症機構が解明できれば、科学的な予防と対応策に繋がるが容易ではない。

各分担班で実践的な研究を意図して、診断・定義の統一、実態把握、指導と対応法の開発が進められ、各分担報告にみる成果へと進んでいる。今後の課題や提言がなされており、そのひとつずつを検討、研究する必要がある。